

# GSJ

地球をよく知り、地球と共生する

# 地質ニュース

2023

11

Vol.12 No.11



# 11月号

---

口絵 303 **山口県美祢市の神社石造物にみる地域に根付いた石灰石文化**  
藤川将之・中澤 努・上野勝美

---

305 **AI 技術を用いた深海における環境影響評価手法を考案  
—物体検出モデルにより画像から懸濁粒子数を自動計測—**  
齋藤直輝・Travis WASHBURN・鈴木 淳

---

310 **地質標本館展示更新：1 階ロビーの「誕生石」展示**  
柳澤教雄・角井朝昭・瀬戸口 希・古澤みどり・朝川暢子・清水裕子

---

312 **第 38 回 地質調査総合センターシンポジウム「美ら海から知る美ら島の歴史 —500 万年間の地史を求めて—」  
開催報告**  
井上卓彦・荒井晃作・板木拓也・宮地良典・  
清家弘治・有元 純・三澤文慶

---

316 **国の内外でパワフルな活躍をされた地質調査所時代の大先輩，平山次郎氏の生涯と業績（後編）**  
徳橋秀一・柳沢幸夫

---

321 書籍紹介 「伊豆諸島の自然と災害」

---

323 ニュースレター「地質調査総合センターから 4 組の方々が日本地質学会の各賞を受賞」

2023

12/8 金

開催時間：13：30～17：15  
(受付開始：13：00～)

- 会場  
秋葉原コンベンションホール & Hybrid スタジオ
- 住所  
東京都千代田区外神田 1-18-13  
秋葉原ダイビル 2F
- アクセス  
JR 秋葉原駅（電気街口）  
徒歩 1 分
- 参加費：無料、定員 150 名
- 参加お申し込み締め切り2023 年 12 月 4 日（月）まで
- ジオ・スクーリングネット  
対面でのご参加の方のみ  
CPD3.5 単位の取得が出来ます。
- 懇親会  
シンポジウム終了後に、懇親会の開催も予定しております。
- 申込方法  
地圏資源環境研究部門のホームページ (<https://unit.aist.go.jp/georesenv/>)、**“地圏資源”** で検索、または下記の QR コードからもアクセス可能です。



— 地層処分研究における地圏資源環境研究部門の取り組み —

# 海と陸をつなぐ地下水の動き

【第 40 回地質調査総合センターシンポジウム  
令和 5 年度地圏資源環境研究部門研究成果報告会】

高レベル放射性廃棄物等の地層処分の実現は、社会的に重要な課題であり、本シンポジウムでは地層処分研究の一環として実施してきた、沿岸部の浅層から深層にかけての地下水流動に関する研究に関して、現地調査結果や数値解析結果などの実例を中心に、招待講演を交えてこれまでに得られた研究成果を報告いたします。  
<共催> 産業技術連携推進会議 環境エネルギー部会・地圏環境分科会、知的基盤部会・地質地盤情報分科会

## PROGRAM

13:30	開会挨拶 副研究部門長 鈴木 正哉
13:35	地圏資源環境研究部門の概要 研究部門長 相馬 宣和
14:00	[招待講演] 我が国における地層処分の事業および研究開発の取組 資源エネルギー庁・電力・ガス事業部放射線廃棄物対策課 北村 暁 課長補佐
14:40	海と陸をつなぐ研究 ～沿岸部プロジェクトの概要～ 地下水研究グループ 井川 怜欧
15:10	ポスターセッション
16:00	沿岸部深層ボーリング調査からみえたもの 地下水研究グループ 町田 功
16:25	数値シミュレーションで見る沿岸部における地下水の流れ 地下水研究グループ グループ長 吉岡 真弓
16:50	沿岸部の地質環境を海底湧出地下水で探る 地下水研究グループ 小野 昌彦
17:15	閉会の挨拶 地質調査総合センター長 中尾 信典

所蔵標本から厳選した美しい鉱物を月替わりで

# 地質標本館 カレンダー

2024  
年版

リング綴じ、A4 サイズ、壁掛け式：1,200円(税込)



Renewal

大人気グッズが  
リニューアルして登場！

## 鉱物トランプ

ブリッジサイズ、  
プラケース入り：  
900円(税込)



ミュージアム  
グッズは  
ほかにも！

国立研究開発法人  
産業技術総合研究所 地質調査総合センター 地質標本館  
〒305-8567 茨城県つくば市東1-1-1  
TEL: 029-861-3750 <https://www.gsj.jp/Muse/>



詳しくは  
ウェブサイトへ

#### GSJ 地質ニュース編集委員会

委員長 宮地良典  
副委員長 戸崎裕貴  
委員 竹原孝  
児玉信介  
草野有紀  
宇都宮正志  
山岡香子  
森尻理恵

事務局

国立研究開発法人 産業技術総合研究所  
地質調査総合センター  
地質情報基盤センター 出版室  
E-mail : g-news-ml@aist.go.jp

---

GSJ 地質ニュース 第 12 巻 第 11 号  
令和 5 年 11 月 15 日 発行

国立研究開発法人 産業技術総合研究所  
地質調査総合センター

〒 305-8567 茨城県つくば市東 1-1-1  
中央事業所 7 群

印刷所

#### GSJ Chishitsu News Editorial Board

Chief Editor : MIYACHI Yoshinori  
Deputy Chief Editor : TOSAKI Yuki  
Editors : TAKEHARA Takashi  
KODAMA Shinsuke  
KUSANO Yuki  
UTSUNOMIYA Masayuki  
YAMAOKA Kyoko  
MORIJI Rie

Secretariat Office

National Institute of Advanced Industrial Science and Technology  
Geological Survey of Japan  
Geoinformation Service Center Publication Office  
E-mail : g-news-ml@aist.go.jp

---

GSJ Chishitsu News Vol. 12 No. 11  
November 15, 2023

**Geological Survey of Japan, AIST**

AIST Tsukuba Central 7, 1-1-1, Higashi, Tsukuba,  
Ibaraki 305-8567, Japan

## 北海道東部，弟子屈町のアトサヌプリ火山と硫黄鉱床

[cover photo](#)



北海道東部，弟子屈町のアトサヌプリ火山（標高 512 m）は，アイヌ語の“裸の山”を語源とする活火山である。過去 2700 年間に少なくとも 7 回の噴火があり，最新の噴火は 300–400 年前であったことが判明している。この火山は屈斜路カルデラ中に位置し，摩周火山と共に約 4 万年前のカルデラ噴火以後に発生した後カルデラ火山群の一部とされる。変質した安山岩の山肌には硫黄を伴う噴気孔が点在し，活発に火山ガスが噴き出している。硫黄は，昭和 30 年代までマッチや火薬の原料として採掘され，地元では硫黄山とも呼ばれている。

（写真・文：七山 太 産総研地質調査総合センター 地質情報基盤センター / ふじのくに地球環境史ミュージアム）

The Atosanupuri Volcano and sulfur deposits in Teshikaga, eastern Hokkaido, Japan. Photo and caption by NANAYAMA Futoshi